

立教中高同窓会会報

2006年度臨時総会・懇親会等報告および2007年度定期総会のお願い

2006年6月17日(土)午後3時より立教新座中学校高等学校3号館4階 St. Paul'sスタジオにおいて立教中学校高等学校同窓会臨時総会が開かれました。特段議題があった訳ではありませんが、従来規約によりまた予算上の都合により総会が2年に1度しか開く事が出来ない状況を、本来あるべき姿の毎年総会を開催する事が可能か否か確認する意味もあって、臨時総会を開催致しました。同窓会としては新座において初めて開催した訳で、総会はもとより懇親会等の企画の如何により会の評価がなされたものと思います。

総会に先立ち、新座校の施設見学会を催しました。立教高等学校が新座市に移転後ご卒業なされた同窓生には、懐かしい校舎や卒業後に建設された新しい諸施設の素晴らしさに感激頂いたものと存じます。また移転前にご卒業なされた同窓生にとっては、後輩達が利用した諸施設を見学され、立教中学校・高等学校の素晴らしさを再確認して頂いたものと存じます。案内係が不慣れな為、不都合もあったかも知れませんがご容赦下さい。

総会会場においては、チャペル『立学院聖パウロ礼拝堂』信徒でもあられる元立教高等学校数学科教諭大貫金吾先生に『富士山と立教と私(富士山を登り続けて継続は力なり)』の講演を頂きました。同窓生は富士山の魅力と立教の素晴らしさに聞き入っておりました。懇親会は会場を立教大学新座校の食堂棟に移して開かれ、後藤篤新座校校長・中島博池袋校校長はじめ別表のように多くの現役・退職教職員の方々のご臨席も頂き、また立教大学体育会応援団の演舞等もあって、同窓生には楽しく懐かしい時を過ごして頂いたものと存じます。

今回の同窓会総会は表記のとおり開催されますが、規約一部改正等の議案もございます。また更に楽しい企画を立案中ですので、同窓生各位におかれましてはお忙しい事とは存じますが、懐かしい母校を是非ご訪問頂けます様よろしくお願い致します。

2006年度臨時総会・懇親会出席教職員(敬称略・2006年6月17日時点)

立教新座校		立教池袋校		退職者	
後藤 篤	校長	中島 博	校長	伊藤俊太郎	元社会科教諭
山内 辰治	教頭	舘 彦史郎	教頭	海野 慎次	元数学科教諭
長谷川清純	チャプレン	菅原 裕治	チャプレン	大貫 金吾	元数学科教諭
村上 秀幸	事務長	押田 修実	事務長	河合 靖峰	元国語科教諭
鈴木 武次	社会科教諭	高野 利雄	社会科教諭	坂西 公一	元音楽科教諭
澁谷 壽	数学科教諭	萩原 正人	職員	清水 靖夫	元社会科教諭
今野 正行	数学科教諭	武藤 孝宏	職員	庄子 恒光	元理科教諭
清水 邦彦	数学科教諭			日高 宏	元理科教諭
佐藤 亜紀	職員			藤岡 由膨	元数学科教諭
松本 真哉	職員			北條 鎮雄	元英語科教諭
萩 弘治	職員			森田 利光	元英語科教諭
内藤 誠	職員			谷岡 カツ	元職員
安藤江美子	職員				

(同窓会 広報委員会)

2007年度立教中学校・高等学校同窓会定期総会等のご案内

定期総会	日 時	2007年6月16日(土) 午後4時開会
	場 所	立学院諸聖徒礼拝堂(立教大学池袋キャンパス内チャペル) 下記地図 A
懇親会	日 時	2007年6月16日(土) 午後5時受付開始
	場 所	立教池袋中学校・高等学校5階 センテニアルホール 下記地図 B
会 費	一般会員	5,000円
	学生会員	2,000円

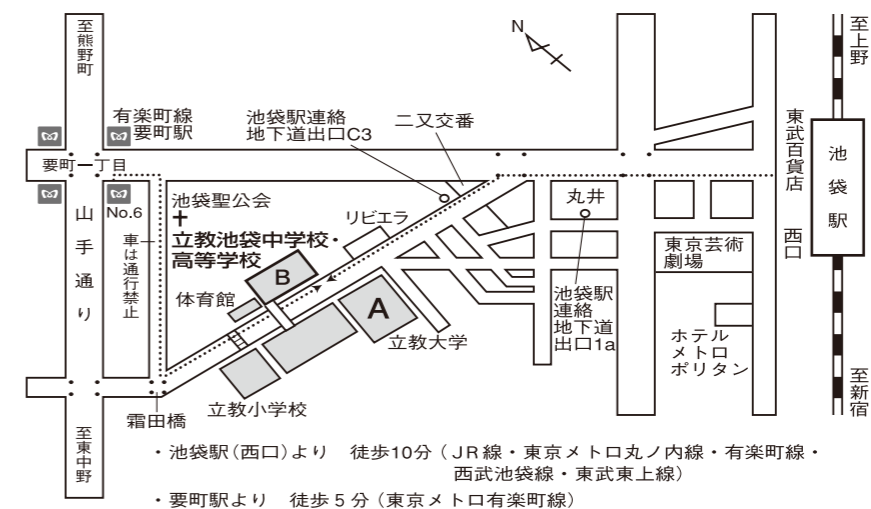
同窓会会員の皆様におかれましては、卒業以来、社会世相変遷の中にあつて、各方面、各分野でご健闘ご活躍のことと存じます。今年の定期総会は歴史的建造物として認定されました、懐かしの立学院諸聖徒礼拝堂(立教池袋キャンパス内チャペル)を会場といたしました。

日頃は多忙な生活。この機会に日々の活躍に真心をもって感謝し、賛美を捧げる同窓生の為の祝福礼拝を企画致しました。

初夏の一夕、懇親会では、新しくなった池袋校にて久々に相つどい、恩師をかこみ同窓生の皆様の近況を聞き、旧交を温め合うのも大いに意義のあることと思います。青春を謳歌した頃の思い出を語り合えることを楽しみにしております。

また、同窓会総務委員会では同窓生同士の絆、結束力を高めるために立教中学校・高等学校をイメージしたシンボルマークを検討しています。懇親会中にシンボルマーク案をご紹介しますのでご期待下さい。

尚、会場の準備がごございますので、ご出席のお申し込みは同封の払込取扱票に **懇親会費・維持会費の金額等** 必要事項をご記入のうえ、5月末日までにお願ひ致します。ご卒業年は、封筒の宛名シールをご参照下さい。



(同窓会 総務委員会・企画委員会)



「同窓会報創刊」にあたって

会長 永井 寛泰

私ども新執行部が立教中高同窓会の運営をお引き受けして4年になろうとしています。これまで多くの会員の皆様の御協力と、両校の校長先生をはじめ教職員の方々の御支援を頂き、同窓会の「活性化」に向けて一丸となって取り組んでまいりました。

殊に、前回の定期総会では会費の値上げが決定され、更に昨年からは、維持会費の御協力も頂くことにより予想以上の速さで財政基盤が確立し、会員交流の場である総会の毎年開催が可能になりました。そこで昨年は、新座で臨時総会を開催し、すべてが初めての経験のため、執行部には協議に協議を重ねて頂き、今までとは趣を異にした意義ある総会となりました。当日は多くの会員・先生方、特に新座の多くの先生方に来て頂き、好評を得ることができましたが、更に会員の交流を深めるためには、何よりもまず総会を毎年開催することが必要だと痛感致しました。

さて、御周知のとおり母校は池袋中学、新座高校という長い時代から、8年前に「池袋中学校・高等学校」「新座中学校・高等学校」に独立し、両校共に6年一貫教育の素晴らしい成果をあげられ、かつ社会的評価も高まり、応募者も年々増加しております。少子高齢化や法の改定、そして補助金の削減など、現在の私学教育の受難な時代における母校の素晴らしい発展は、情熱を傾けて教育に当たって頂いている教職員の方々の努力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

この様に両校はそれぞれの歴史を歩み始めています。同窓会の新会員は学校も先生も異なる両校から迎えることになり、私たちにとって今まで経験したことのない時代を迎えました。しかし、両校は建学精神・キリスト教教育、それに学校の歴史を共有しています。新会員の皆様にとっても、同窓会は先生方や一緒に学んだ友達・部活で汗をかいた仲間や先輩・後輩など、卒業年度の垣根を越えた多くの会員との交流を深める唯一の場所なのです。私たち執行部は力を合わせて「会員相互の交流を深め、母校の発展に寄与する」という同窓会の目的のため、更に一層努力していかなければなりません。会員の皆様の更なるご協力をお願い致します。

2006年6月17日 臨時総会



中島 池袋校校長



後藤 新座校校長



大貫 元数学科教諭



永井会長あいさつ



施設見学会(立教新座チャペル前)



同窓会会報に寄せて

後藤 篤(前立教新座中学校・高等学校校長)

私は2003年4月から2007年3月まで4年間、立教新座中学校・高等学校の校長を務めさせていただきました。その間に中高同窓会の活動はかなり変わりました。総会の出席者数が増加したことも、この会報が出されることになったのも、2006年6月に始めて新座キャンパスで総会が開かれたのも会長を中心に理事の皆様が何回も理事会を開いて議論を重ねて下さった結果であり、学校としても大変感謝しております。しかし、いざ同窓会の活動が活発になってくると、同窓会自体がかかえている問題点も明らかになってきます。

その一つは、高校卒業生が納入する入会金・終身会費が長く2,500円であったことから生じた経済的基盤が弱いことであり、「事業」がほとんど行われなかったことです。唯一行われてきた「事業」は2年に1回の総会だけであり、規約第2条にある本会の「目的」が具体的なものにならない状態が続いていたように思います。これは2005年度の総会で規約改正が行われ、新入会員の入会金・終身会費が10,000円になったことで、今後は少しずつ解消されていくと思います。これを機に「会員相互の親睦を厚く」するための、また「母校の発展を期する」ための「事業」を増やしていただければと思います。

今後生じる大きな問題点としては通常会員の構成にあると考えます。2000年3月までに立教高校を卒業された方には、「立教新座」とか「立教池袋」という言葉は聞き慣れない言葉だと思います。皆様よくご承知のように、旧制立教中学校は1948年(昭和22年)4月に新制の立教高等学校と立教中学校に変わりました。その後立教高等学校は1960年(昭和35年)4月に池袋から新座に移転しました。さらに2000年4月に立教高校は中学校を開校して立教新座中学校・高等学校に変わり、立教中学は高校を開校して立教池袋中学校・高等学校に変わりました。それから3年後に、池袋の中学校から新座の高校への進学はなくなりました。「中高同窓会」は1950年(昭和25年)に発足しましたが、このような歴史を踏まえて、2003年に会則が改正され、会則第3条で通常会員を次の三つのグループに分けています。

- ①旧制立教中学校・新制立教中学校・高等学校の卒業生
- ②立教新座中学校・高等学校および立教池袋中学校・高等学校の卒業生
- ③上記①②の学校に在学した者で入会を希望する者

①のグループも細かく分ければいくつものグループに細分化されますが、どのグループの方も「同じ学校で学んだ」という意識は持っていると思います。しかし、②のグループの会員で、2006年3月以降の立教新座・立教池袋の卒業生は、同じ年度の卒業生でもまったく交流がなく、まったく別の学校で学んだ人たちですから「同じ学校で学んだ」経験がなく、「同じ学校を卒業した」という意識は持ちにくいと思います。今後はこの人たちが増えていきますから、10年・20年後の「中高同窓会」が現在の組織を維持できるか疑問になります。立教大学の校友会は規模も大きく、もともと別の学部出身者はあまり交流がありませんが、「同じ大学の出身者」という意識は強く持っておられるようです。立教新座と立教池袋は「別の学校」という位置付けがなされているだけに、この問題は今後の中高同窓会の大きな課題であり、理事会で今後時間をかけて議論する必要があると思います。

以上問題提起をさせていただきましたが、現在の理事会のパワー溢れる活動で問題解決を図っていたら幸いです。

会員の皆様のご活躍とご健康をお祈りしております。